

上農高校 緑地工学科の活動

上伊那農業高等学校緑地工学科 ○ 武田英太
同 たけむらひろし
竹村大志

要 旨

私たちは専門の知識技術を学ぶために教室での授業や実習の他にさまざまな活動をしています。主な活動内容は①専門の知識技術を活かして地域との交流②地域の環境調査と保護活動③国際交流と海外研修④国有林での林業体験⑤プロジェクト活動⑥企業研修等々があり多岐にわたっています。

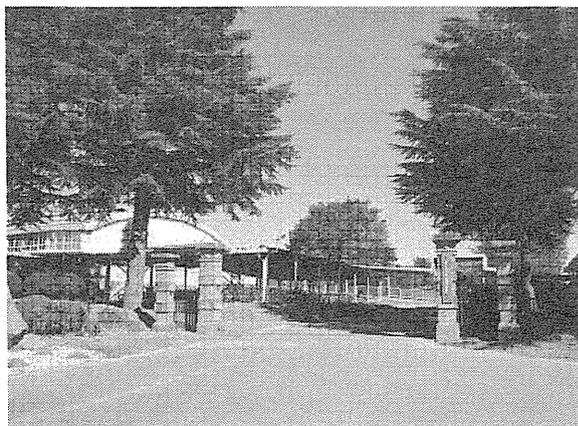
はじめに

平成2年に当時の林業科を学科改編して緑地工学科は誕生しました。2年生より生徒の希望により「緑地コース」「土木コース」に分かれてそれぞれの専門の勉強をしています。緑地コースは私たちの周りにある「みどり」を守り育てる知識と技術を学びます。土木コースは住み良い環境を作るための土木工学に関する知識と技術を学びます。

1 上伊那農業高校とは

私たちの上伊那農業高校は伊那市郊外の南箕輪村にあります。明治28年(1895年)に地域の農業の発展を願って郡立上伊那簡易農学校として開校。その後農業教育を通じて豊かな人間教育を実践し、多くの優れた人材を世に送り出してきました。昭和19年に林業科を設置、その後の農業経営形態の変化とそれにとמוなう地域の要請により、学科改編を繰り返して、農業科・園芸科・生物工学科・緑地工学科の4学科を維持してきました。昨年度農業科・園芸科をそれぞれ生産環境科、園芸科学科に改編して、各科とも特色ある教育をおこなっています。創立以来変わらぬものは、地域の学校として、常に地域を見つめ、地域とともに歩んできたことです。地域では「上農(じょうのう)」の名で親しまれている。ことしは創立110周年を迎え節目の年にあたります。「生命に学び地域とともに110年」スローガンに生徒会活動をはじめとして農業クラブや国際交流などさまざまな特色ある活動をしています。

現在の学科は生産環境科・園芸科学科・生物工学科・緑地工学科の4学科があります。それぞれの学科はいずれも地域の要望に基づくもので、本校の農業教育を支える柱として有機的に結びつきながら展開しています。本校卒業生の7割以上が四年制大学、短期大学、専門学校へ進学しており進学志向が強く、とりわけ地元の信州大学農学部をはじめ国公立大学へは毎年10名前後が合格しています。また、資格取得にも力を入れており、毒物劇物取扱責任者、造園・土木施工技術者、簿記検定をはじめ26種類に及ぶ資格取得に挑戦しています。



上伊那農業高校

2 緑地工学科の取り組み

緑地工学科の活動は①専門の学習②地域との交流③国際交流と海外研修④環境調査と保護活動に大別できます。

(1) 専門の学習（緑地コース）

一年時では森林・林業・土木関係などの基礎的な内容を学び、2年次より「緑地」「土木」の2コースに分かれてより専門の学習をおこないます。森林・林業の学習に限って紹介しますと、1年次では平板測量・トランシット測量の基礎的な技術を学び、夏休みには演習林の宿舎に宿泊して、森林の管理や樹木の検索方法をみっちり学びます。そして2年次からの緑地コースではチェンソーを使っての間伐実習などの林業技術、炭焼きやシイタケ栽培等などの専門的な勉強をおこないます。また、私たちは垣根づくりや冬囲いなどの造園の勉強もおこないます。中でも3年次では造園技能検定3級の資格取得に挑戦します。これは樹木試験と学科および実技試験の三科目の試験がおこなわれます。特に実技試験は決められた時間の中で、設計図を見ながら垣根・飛び石などをつくっていくものです。ちょうど検定が7月ということもあって、炎天下の中で全員が真剣な眼差しで頑張っています。

また、夏休みには地元の企業に出かけての現場体験研修や県林業総合センターで林業体験研修に参加しました。また今年度より地元の国有林でヒノキの植林体験や大阿原湿原での歩道整備をおこないました。

(2) 地域との交流

緑地工学科では科独自の交流をおこなっています。とくに授業で学んでいる専門の知識や技術を地域に還元しようということで、役場や病院等の公共機関に垣根づくりや庭木の手入れ等をおこなっています。また、地域の手入れされていない私有林の間伐に出かけ、その間伐木を木炭にして河川の浄化等に利用しています。

また、県内外の中学生を対象に炭焼き体験をおこなっています。さらに数年前より東京の代々木公園での森林の市に参加し、実習でつくった木炭を販売しながら都民との交流を深めています。二十年近く前から地域の人たちの学びの場としての「公開講座」がおこなわれ、生徒はそのアシスタントとして活躍しています。その年によって講座の内容は違いますが、この頃はきのこ作り・庭づくり・炭焼きの講座がおこなわれ毎回多くの受講生が学んでいて好評です。

(3) 国際交流と海外研修

本校には3年前より「長野県アジア高校生受け入れ事業」の一環としてタイ国の留学生が勉強しています。今年度も2名の留学生が一年間農業等の勉強をおこなっています。そのうちの1人の生徒は緑地工学科の2年生に在籍し森林などを学んでいます。彼は、将来タイ国で森林官になりたいとの大きな夢を持って真剣に日本の林業技術を勉強しています。日本の森林の豊かさと木曽の天然ヒノキ林の美しさに大変びっくりしていました。また、私たちは数年前より熱帯林の現状を視察するためにインドネシアやフィリピンに行っています。今年度はインドネシアに4人の生徒が行きま



平板測量

したが、現地の人たちの歓迎を受け実際に植林体験をおこなってきました。

(4) 地域環境調査と保護活動

私たちは以前から地域の環境に関心を持ち、近くの河川の水質調査や職制調査をおこなっています。また、継続的に帰化植物のアレチウリの分布調査を実施し地域の方と一緒にその駆除に努めています。毎年アレチウリの分布が広がっていくことが心配です。また、伊那市東春近の農業排水路「中正井」の改修工事で、環境に配慮した工法を提案県の公共事業として受け入れられた経緯が評価され、全国「川の日」ワークショップで日本河川協会より準グランプリ賞を受賞しました。



チェーンソーの目立て

おわりに

私たちの学んでいる緑地工学科の活動を簡単に紹介しましたが、私たちはさまざまな活動を通して今緑地工学科で学んでいることに自信と誇りをもって高校生活を過ごしていきたいと思えます。